

令和 7 年度
学校関係者評価報告書

【評価対象期間】 自：令和 6 年 4 月 1 日
至：令和 7 年 3 月 31 日

学校法人創心会 西日本看護専門学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 2 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 2 -
2. 学校関係者評価委員名簿	- 2 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 2 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法と評価の仕方	- 2 -
II. 学校関係者評価委員会の報告	- 3 -
1. 重点目標について	- 3 -
2. 基準項目について	- 4 -
基準1 教育理念・目的・目標(人材育成像)	- 4 -
基準2 学校運営	- 4 -
基準3 教育活動	- 5 -
基準4 学修成果・教育成果	- 6 -
基準5 学生支援	- 7 -
基準6 教育環境	- 8 -
基準7 学生の受入れ募集	- 8 -
基準8 教育の内部質保証システム	- 9 -
基準9 財務	- 10 -
基準10 社会貢献・地域貢献	- 10 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的・基本方針

1) 目的

- ① 保護者等、卒業生、地域住民、企業関係者、高等学校関係者などの学校関係者が、西日本看護専門学校自己点検・自己評価結果を評価することを通して、自己評価の客観性・透明性を高める。
- ② 学校運営・教育活動の現状と課題について、学校関係者と共通理解を深めて、相互の連携を促し、学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

西日本看護専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員名簿

区 分	氏 名	所 属(役職)
地元企業関係者	川 井 伴 子	(社医)北九州病院 北九州総合病院 看護部長
高等学校関係者	合 満 聡	福岡県立京都高等学校 校長
地 域 住 民	柴 田 文 寿	湯川校区
卒 業 生	瀧 内 正 範	福岡青洲会病院
保 護 者 等	越 智 る み	保護者等代表

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

日 時：令和7年5月23日(金) 14:00～15:00

場 所：西日本看護専門学校 1 階 会議室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法、評価の仕方、公表

学校関係者評価委員の皆様、西日本看護専門学校の自己点検・自己評価表を事前に配付し、ご意見をいただく。学校関係者評価委員会開催時に、本校から評価項目の説明及びいただいたご意見を紹介、また新たなご意見をいただく。いただいたご意見を参考に自己評価結果及び課題・改善方策について、次のポイントに留意しながら評価を行った。

- ① 自己評価結果の内容が適切か
- ② 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
- ③ 学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切か
- ④ 学校の運営に関する助言

ご意見は、本報告書として取りまとめ、今後の教育活動や学校運営の改善に活かし、教育水準の向上に努めることとし、ホームページに公表いたします。

Ⅱ. 学校関係者評価委員会の報告

1. 重点目標(基準項目)について

1) 学生の臨床判断能力を育成する。

【取組み状況ならびに成果と課題】

令和4年の改正カリキュラムの課題のひとつに臨床判断能力の育成が挙げられており、本校でも臨床判断能力の育成に向け取り組んでいる。熟考型の思考である看護過程の展開については、授業評価や実習評価を行い、改善に取り組んでいる。一方で、その時のその状況を判断する臨床判断については、気づきをもとにした臨床推論・臨床判断、実践する力が必要であり、シミュレーション教育を行うなど教員各自が工夫した授業を行っている。しかし、これらの能力を評価する明確な指標がないこと、実習においては、その時々状況判断を実習の評価として設定していないことなどがあり、教育評価に至っていないのが現状である。

今後は、講義演習でのシミュレーション教育をさらに工夫改善し、臨床判断能力の育成に取り組んでいきたい。また、臨地実習においては臨床指導者と協力しながら臨床場面における看護師の判断を学ぶとともに判断に必要な知識や判断根拠を学べるよう指導を行っていきたい。

【学校関係者評価委員からのご意見】

特になし。

2) キャリア教育内容を体系化し、各学年に応じて実施する。

【取組み状況ならびに成果と課題】

キャリア支援については、目標を「『看護師になる』という気持ちを支えつつ、社会人としての姿勢を身につけられるよう支援する。職業観や勤労観を育み、個々人の個性や適性、自己理解に基づき、学生自身がキャリアプランを描けるよう段階的な支援を行う。」と掲げ、3年間の支援内容を設定、実施した。

令和6年度からは1年生の希望者と2・3年生全員の進路面接を実施した。また、就職支援については学生のニーズに沿った内容を盛り込んだ学内病院説明会を企画、開催した。参加した学生からの評価は高く、自らのキャリアを考える機会になった。

近年、看護師の資格取得のみを目的とし、職業として看護師を選択する意思のない学生も入学している。早期から自己のキャリアを考える機会を持てるようにしていくことが課題である。

【学校関係者評価委員からのご意見】

特になし。

2. 基準項目について

自己点検・自己評価における中項目評価結果は、以下のとおりとする。

S : 適切 A : やや適切 B : やや不適切 C : 不適切

基準 1 教育理念・目的・目標(人材育成像)

学校関係者評価:適切

➤ 総括

教育理念、教育目的、教育目標(育成人材像)については、ホームページ、学生便覧、シラバスに明記し周知を図っている。新入生及び保護者等には入学時オリエンテーション、保護者等懇談会を通じて、在校生には新学期のオリエンテーションにて説明を行い周知に努めている。令和4年度の第5次カリキュラム改正では、社会のニーズ等を踏まえ検討した教育理念、教育目的、教育目標(育成人材像)を定めている。令和6年度から教育課程編成委員会を設置し、今後の看護師に求められる教育に関する意見をいただき、教育に反映させている。本校の将来構想については、法人から本校の教育に関する将来構想も示されている。

中項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1-1	教育理念・教育目的・育成人材像が明文化され、教職員、学生、保護者等、関係業界に周知を図り、社会に公表しているか	S
1-2	社会や関連業界のニーズを踏まえた将来構想を描いているか	S

➤ 学校関係者評価委員からのご意見

カリキュラム・ポリシーが具体的に示されていること、教育理念、教育目的、教育目標(育成人材像)の周知が図られていることに高い評価を得た一方で、大学との差別化を表してはという意見をいただいた。

➤ 課題・改善策

教育理念、教育目的、教育目標(育成人材像)については、本校教職員だけでなく、非常勤講師・実習指導者にも引き続き周知していくことが課題である。

少子高齢化やDX化の推進等、社会や医療業界の変化に伴い、求められる人材像も変化するものと思われる。また、少子化による受験生の減少、本法人の大学設置計画など本校が置かれている状況も変化している。今後の社会の状況、本校の将来構想をもとに対応できるようにしていきたい。

基準 2 学校運営

学校関係者評価:やや適切

➤ 総括

令和6年度に都道府県知事所轄準学校法人から文部科学大臣所轄学校法人への組織変更を申請中である。また、改正私立学校法に基づく寄附行為の変更を行った。運営組織、意思決定機関については、適切に機能している。年度開始時に教育理念に沿った組織の運営方針、事業計画を策定し、全教職員に周知している。事業計画の執行状況は、定期的に運営会議、教務会議等で確認している。

情報のシステム化については、各教職員へ貸与しているパソコンを更新した。しかし、入試・学務・財務におけるデジタル化は遅れており、ICTの活用に向けた準備を開始した。今後、学校管理システムの導入

の検討、教育DXによる学習効果や課題、その導入に伴う経費等を検討しながらDX推進に向けた準備を行っていく必要がある。

中項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-1	学校の教育理念等に沿った運営方針を定めているか	S
2-2	事業計画を作成し、執行しているか	S
2-3	運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか	S
2-4	人事・給与に関する制度を確立しているか	S
2-5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	B

➤ 学校関係者評価委員からのご意見

デジタル化による業務の効率化は必要であるとの意見をいただいたが、令和7年度は厚生労働省「看護師等養成所におけるDX効果検証事業」実施団体に選定されたことから、情報システム化を進めていく方針に期待するという意見をいただいた。

➤ 課題・改善策

寄附行為の変更が行われており、今後は、改正後の寄附行為、および法人の運営方針に基づいて運営を行っていくことが課題である。

情報システム化については、令和7年3月に厚生労働省の公募「看護現場におけるデジタルトランスフォーメーション効果検証事業（看護師等養成所におけるDX効果検証事業）」（令和6年度補正予算）に応募し、5月に実施団体として選定された。その取り組みの一つに校務システムの導入を挙げている。今後は厚労省の委託事業者の支援を得つつ、情報システムの導入・運用、効果検証を進めていく予定である。

基準 3 教育活動

学校関係者評価：やや適切

➤ 総括

教育理念、教育目的、教育目標（育成人材像）に沿ったデュプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを策定し、カリキュラムを編成・実施している。改正カリキュラムは完成年度を迎え、教育評価を行いつつ進めている。令和6年度から教育課程編成委員会を設置し、教育課程・授業内容・方法の改善等の意見をいただき教育に反映している。また、3年次の技術試験では、実習病院と連携して看護師に模擬患者を依頼し、学生の看護実践の評価を行った。臨床に近い設定が可能であり、学生にとって患者と看護師の双方の立場からの助言をいただく機会となったこと、教員にとっては学外の看護師の意見をもとに教育内容を見直す機会になり有効であった。

看護師国家試験については、1年次から年間計画を立案し指導体制を整えている。しかし、模擬試験や国家試験に向けた学習は教育課程外となり指導体制が十分活かせない状況が生じている。キャリア支援については、入学時から卒業後までのキャリア教育を体系化した。学内で病院説明会を開催し、各学生のニーズに合った情報が得られるよう工夫している。また、1年次から個別的な指導を含めて支援している。高校との連携によるキャリア教育については、高校からの要請に応じて可能な限り参加し、前年度より大幅に増加している。また、北九州市主催の「北九州ゆめみらいワーク2024」にも参加した。

令和6年度は1名の教員が専任教員養成講習会受講し、専任教員の要件を満たすことができた。令和7・8年度にも専任教員養成講習会受講を計画している。教員の能力開発については、教員が多くの研修会等に積極的に参加するようになっている。

中項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-1	教育理念、教育目標（育成人材像）に沿った教育課程を編成・実施しているか	S
3-2	各学科の教育目標、育成人材像に向けて、体系的なカリキュラム作成などの取組がなされているか	A
3-3	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	S
3-4	資格・免許取得のための指導体制があるか	S
3-5	基礎的・汎用的能力（①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力、④キャリアプランニング能力）を身につけるための取組が実施されているか	S
3-6	教員の能力評価・能力向上に向けた取組を行っているか	S

➤ 学校関係者評価委員会からのご意見

臨床経験のある看護師に模擬患者を依頼し、学生の看護実践の評価を行ったことに高い評価を得た。授業等において、動画やより臨床現場に近いシミュレーションを導入するなど学生が主体的に学ぶ教育を進めるよう意見をいただいた。

➤ 課題・改善案

カリキュラムの評価に基づき、より効果的な運用ができるよう教員間での意見交換を行っていく。教育課程編成委員会の一層の充実を図り、カリキュラムの改善を行っていく。また、「看護師等養成所におけるDX効果検証事業」の一つとして臨床現場に近い環境下でのシミュレーションと振り返りを行い「看護実践力を持った看護師の育成」を目指した教育を実施していく予定である。

基準 4 学修成果・教育成果

学校関係者評価：やや適切

➤ 総括

学生の習熟状況については、各学年の終了時に成績等をもとに学習者の状況を分析し、成績低迷者については保護者等とともに面談を行い学習支援につなげている。

臨地実習の学習成果については、評価項目と基準に基づき評価を行っているが、評価の一部において育成する看護師像にそった評価ができていないことが明らかになった。

令和6年度は、就職率は93%であった。看護師免許が取得できなかったこと、看護以外の進路を選択し進学を希望する者もあったことにより前年度に比べ低下した。

看護師国家試験の令和6年度の合格率は95%であり、全国の新卒者と同様の合格率であった。前年度の卒業生に対してホームカミングデイを設け、新人看護師としての悩み等を聞く機会を設けた。また、就職先が本人の状況と合わなかった卒業生には再就職の支援を行った。

中項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1	教育目標、育成人材像に向けてその達成への取り組みと評価がされているか	S

4-2	就職率の向上が図られているか	S
4-3	資格・免許取得率の向上が図られているか	S
4-4	卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	S

➤ 学校関係者評価委員会からのご意見

実習終了後のまとめやアンケートが領域によってばらつきがあり、統一した評価は必要との意見をいただいた。また、国家試験の合格率の低下について、今の若者の特徴をふまえ工夫が必要であるとの意見をいただいた。

➤ 課題・改善策

育成する人材像に沿った評価（実習を含む）について検討を行い、実施していく。また、学生の習熟状況に応じた支援について検討し、より効果的な指導につなげるようにする。

本校卒業生の看護師国家試験合格率が低下した。教育方法の検討や指導の改善とともに、国家試験への学生の意欲向上に向けた取り組みを実施していく。

基準 5 学生支援

学校関係者評価：適切

➤ 総括

学生の修学のための修学支援新制度対象校・専門実践教育訓練指定講座となっており、学生の経済的側面に関する支援体制は整備されている。また、健康管理体制、進路支援体制、相談体制を整え、学修に専念できる環境を整えている。クラス担任および小集団担当教員を配置し、学生の相談体制を整えている。令和6年度から1年次からの就職・進学指導を開始し支援態勢を整えており、個別の指導も行っている。また、主な就職先となっている関連病院との連携を強化し、学生のニーズに応じた支援体制を構築した。

令和6年度の退学者は5名、退学率は3.3%であった。5年度に比べ増加しているが、退学理由もやむを得ない理由であったと考えている。卒業生の1年未満の退職者は4名であった。

中項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-1	学生に対する修学支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか	S
5-2	就職・進学指導に関する支援体制は整備され、有効に機能しているか	S
5-3	学生相談に関する体制は整備されているか	S
5-4	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。学生の健康を担う組織体制はあるか。生活環境支援体制を整備しているか	S
5-5	退学率の低減が図られているか	S
5-6	保証人との連携体制を構築しているか	S
5-7	卒業生の動向を把握しているか。社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	S

➤ 学校関係者評価委員会からのご意見

看護師志望者は以前から親の勧めが多く、多様な進路選択が可能となっている現在では退学率の低減は難しい課題だと思う。臨地実習では看護の楽しさを実感してもらえるような実習となるとよい。

1年未満の退職者については、急性期病院、療養型病院ともに非常に忙しい状況であり、学生時代に思い描く看護ができない状況にある。本人と就職先がミスマッチの場合は他の施設への異動や転職もひとつの選択であり、看護師を続けてくれるとよいと思う。本校は卒業生が気軽に帰ってこられる環境はよいと思うとの意見をいただいた。

➤ 課題・改善策

学生の個別の支援を行い、今後も看護を志す学生の退学を防止することが課題である。また、卒業生においては、卒後1年未満の退職者が出ており卒業生への支援についても検討していく必要がある。

基準 6 教育環境

学校関係者評価:適切

➤ 総括

看護師等養成所の運営に関するガイドラインに則り設備、教材、備品、図書等を整備しており、さらに、ハイブリッドシミュレータなども整備し、学生がより臨床の場に近い学習ができるよう環境を整備している。実習室には、1ベッドに1台のホワイトボードを設置し、学生の看護演習での気づきや振り返りに役立つようにした。図書については新分類に変更し、学生が活用しやすいようになっている。

防災に関しては、組織体制や安全管理マニュアルを整備し、災害時の対策に関する計画立案に基づき、防災訓練を年に1回実施している。

中項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-1	施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	S
6-2	校外の実習、インターンシップ、海外研修等について、十分な教育体制を整備しているか	S
6-3	防災・安全管理に関する体制を整備しているか。防災訓練等を実施しているか	S

➤ 学校関係者評価委員会からのご意見

特になし。

➤ 課題・改善策

「看護師等養成所におけるDX効果検証事業」として、全館のWi-Fi設備やICT機器を導入する予定である。災害発生時のマニュアルの整備と学生教職員への周知徹底、地震等の災害を想定した訓練を行うことが課題である。

基準 7 学生の受入れ募集

学校関係者評価:適切

➤ 総括

学生募集活動は、オープンキャンパスを開催し本校の教育の場を通して教育活動の理解を得るようにしている。

令和6年度は学校案内を刷新し、アドミッション・ポリシーや本校の特徴がわかるよう紹介している。また、九州・山口の各地で開催される説明会、高校内での進路説明会・キャリア教育に参加し、看護師の職務や本校の教育の特徴、教育内容、教育の成果を紹介している。また、県内及び近隣の高校を訪問し、本校の特徴を紹介している。入学者選抜については、令和7年度の社会人選抜を前年度の1回から2回に増やしたが、社会人の志願者は少数であった。入学者選考においては公正な選考を行っている。

中項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
7-1	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	S
7-2	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	S
7-3	学納金は妥当なものとなっているか	S

➤ 学校関係者評価委員からのご意見

大学設置に伴い、本校が閉校するとの情報があるが、その理由についてどのように考えているか。

➤ 課題・改善策

本校の閉校については、WEB検索のAIによる回答で閉校予定と示されていた。サイト運営会社に申し入れするとともに本校や大学はホームページ上で本校の存続を告知している。今後も、オープンキャンパスや進路説明会を通して本校の理解が深まるよう情報提供を行っていく。

入学選考については、社会人の志願者の減少により社会人選抜を1回にする。

基準 8 教育の内部質保証システム

学校関係者評価：適切

➤ 総括

保健師助産師看護師学校養成所指定規則、看護師等養成所の運営に関するガイドライン、専修学校設置基準等の法令を遵守し、学校の運営を行っている。保健師助産師看護師法施行令第14条第1項の規定による年次報告についても指摘や提言は受けていない。個人情報保護規程、ハラスメント防止規程等を含む諸規程についても適切に整備されている。

令和5年度から全教職員による自己点検・評価、その結果をもとに自己点検・自己評価委員会にて協議を行い、全教職員で課題と改善計画を共有する体制に変更した。この自己点検・評価活動を通して全教職員の学校教育・学校運営の課題等の認識につながっている。

中項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行なっているか	S
8-2	個人情報に関する規程を整備し、個人情報に対する対応を取っているか	S
8-3	自己評価、学校関係者評価の実施体制を整備しているか	S
8-4	教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制を確立して改革・改善のためのシステムが構築されているか	S
8-5	教育活動に関する情報公開を積極的に行っているか	S

➤ 学校関係者評価委員からのご意見

特になし。

➤ 課題・改善案

令和8年4月1日に改正学校教育法施行、「専修学校における学校評価ガイドライン」が改正される予定であるため、今後の自己点検自己評価のあり方、第三者評価について検討していく必要がある。

基準 9 財務

学校関係者評価:適切

➤ 総括

財務諸表はホームページに公開しており、学校の財政基盤は安定している。事業年度開始にあたっては、教育機器・教材の購入を年間予算に計上し、計画的・優先的に購入し、教育活動が遂行できるようにしている。適正に執行管理しており、会計監査が行われている。

中項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1	学校の中長期的な財務基盤は安定しているといえるか	S
9-2	予算及び収支計画は有効かつ妥当か。予算及び収支計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	S
9-3	財務について会計監査が適正におこなわれているか	S
9-4	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	S

➤ 学校関係者評価委員会からのご意見

特になし。

➤ 課題・改善案

大学設置認可申請に伴い、文部科学省大臣所轄学校法人へ組織変更を申請中（所轄変更）であり、組織変更に対応するため会計監査人（公認会計士）による監査を令和7年4月より開始する。また、大学設置に伴い内部監査室の設置を計画しており、設置後は、監事を内部監査室がサポートしながら監査を行っていく。

基準 10 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価:適切

➤ 総括

社会貢献・地域貢献活動として、高等学校等で行われる職業教育に関する講師の派遣を行っている。また、専任教員養成講習会の講師を受託し、看護教育の発展に寄与している。

まちづくり協議会主催のイベントにて学生のボランティア活動を支援し、活動することができた。また、「Nっ子ネットワーク カンガルーの親子」主催の北九州おしゃべりサロンに看護学生としてボランティアに参加した。

中項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
10-1	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	S
10-2	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	S

➤ 学校関係者評価委員会からのご意見

特になし。

➤ 課題・改善案

教員の社会貢献として、令和7年度から子どもたちに将来の夢や希望を持ってもらうための「夢授業」に「職業人」として参加予定である。また、学生が今後も地域の活動や看護学生として必要とされるボランティア活動についても支援する。